

2023年3月20日

各都道府県グラウンド・ゴルフ協会会長 様

公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会
専務理事 東野 真理子

大会や講習会などにおけるマスク着用の見直しについて（お知らせ）

平素は日本協会の運営に多大のご支援とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、政府のマスク着用の見直しにつきまして、このたび公益財団法人日本スポーツ協会から「スポーツイベントの開催における感染拡大防止ガイドライン（追補版）」が別添のとおり送付されました。

つきましては、今後は日本協会におきましても、この追補版に示された方針に基づき“マスクの着用は個人の判断に委ねることを基本とする”ことといたします。なお、日本協会スポーツドクターの見解を下記のとおり示しますので、これらのことにも留意のうえ貴協会の関係者へ周知徹底くださるようお願いいたします。

おって、新型コロナウイルス感染症の流行がまだまだ終息しない現況に鑑み、三密（密接、密集、密閉）の回避、手洗いやうがいの励行、ソーシャルディスタンスの確保、大声での発声禁止、換気の励行などに引き続き留意するよう、関係者へ指導くださるよう併せてお願いいたします。

<マスク着用に関する日本協会スポーツドクターの見解>

日本協会は高齢の会員が多く、基礎疾患を抱える会員もいるため、追補版の「マスクの着用が個人の判断に委ねられる場合であっても、大会の期間・規模、参加対象に応じて、主催者が感染対策上又は事業上の理由等により、スポーツイベント参加者又はスタッフ等にマスクの着用を求めることを妨げるものではありませんので、感染防止対策としてマスクの着用が効果的である場面の場合は、主催者において適切にご判断ください」の項目に留意する必要があります。

また、別紙1には「感染が大きく拡大している場合には、一時的に場面に応じた適切なマスクの着用を広く呼びかけるなど、より強い感染対策を求めることがあり得る」という項目がありますが、今後の大会や講習会においては、マスク着用は個人の判断に委ねるとしながらも、感染状況に応じて柔軟かつ機敏に対応しなければならないことはいうまでもありません。

さらに、体力に自信があり内服などもしていない会員がマスクをはずすことが考えられますが、その一方で、基礎疾患があるため、感染防止のためマスクをはずしたがない会員がいることも考えられますので、そのような会員同士が同じ場所でプレーするときにトラブルにならないように、人それぞれの身体の状況や考え方でマスク着用の有無が変わることがあることを、会員がお互いに理解し合えるような指導をすることも肝要といえます。